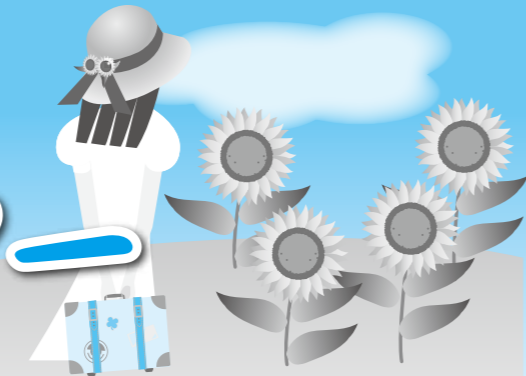


おくとび

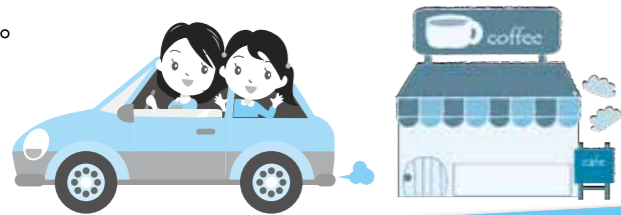
むふふサマー



「おくとび女子旅つくる！委員会」では昨秋「Okutabiむふふオータム」と題して、地域資源を活かしてまちの人たちが観光客をおもてなしするイベントを開催しました。全部で21の体験プログラムが実施され、県内外から約230名の皆様にご参加いただきました。参加いただいた方の多くからは「楽しかった」「また参加したい」と好評を得ることができました。

今年は、実施時期を夏に移し、「Okutabiむふふサマー」として、7月下旬から8月末までの期間で企画します。雲南圏域の夏をより楽しくする企画が集まりましたので、ぜひお誘い合わせの上ご参加をお待ちしています。

なお、詳細は6月末より配付予定のチラシをご覧ください。



Okutabi 第3号発行



「おくとび女子旅つくる！委員会」では今年3月に奥出雲の観光情報誌「Okutabi(オクタビ)」の第3号を発行しました。第3号は、「旅に出かける際に誰と行くかは、どこに行くかと同じくらい大切に、それによって行く場所も変わってくる」というコンセプトのもと、友達、彼氏、母親と行く旅それぞれのおすすめモデルコースをつくりました。また、コラム記事を充実させ、地図を大きくするといった改善もしています。

3月の尾道松江線全線開通に合わせて初めて四国の「道の駅」へも配付しました。今後も、一人でも多くの皆様にこの雲南圏域へ来ていただけるよう情報発信をしていくことにしています。



「Okutabi」は中国地方各道の駅や観光施設等に置いてあります。また、電子BOOKとして、ネット上での配信をしていますのでご利用ください。

(電子ブックアドレス<http://okutabi.shimanedeeep.jp/>)



雲南新酒発表会開催



4月21日、チェリヴァホールにおいて、平成26酒造年度雲南新酒発表会が開催されました。

会場には、簸上清酒合名会社(奥出雲町)、奥出雲酒造株式会社(奥出雲町)、木次酒造株式会社(雲南市)、株式会社竹下本店(雲南市)、株式会社赤名酒造(飯南町)、の5社がこの冬に仕込んだ自慢の新酒など25点が並び、参加された皆さんは思い思いに新酒を堪能しておられました。

式典では、まず主催者を代表して雲南酒造協議会の田村会長が「雲南広域連合で、『雲南の地酒で乾杯を推進する条例』を制定された

ことは、たいへん有難く、酒造りの励みになりました。今、日本酒ブームと言われますが、昔はもっともっと皆さんに飲んでいただいていた。それには及びませんが、私たちが更にステップアップして良い酒を造って、先達の皆さんの時代を彷彿とさせる時代が戻ってくればと思います。」と挨拶がありました。

続いて、来賓を代表して速水市長からは、「昨年8月29日に雲南広域連合では『雲南の地酒で乾杯を推進する条例』を制定し、本年2月14日にはキックオフイベントを開催しました。まず乾杯は日本酒であるということで、浸透しつつあります。日本を代表する文化が和食なら、和食から昇華した芸術が日本酒だと思っています。世界の人々が、世界を代表する酒は『日本酒』だと言っただけのように頑張っていきましょう」と力強い挨拶がありました。



雲南酒造協議会 田村会長



雲南特産品フェア

5月16日(土)17日(日)の2日間、広島市の広島テレビ住宅展示場において開催された「雲南特産品フェア」に参加しました。当日は、出雲神楽を伝承する槻屋神楽の上演や出雲そば、島根和牛、焼き鯖など雲南の食も楽しめ来場者3千人へ雲南地域の魅力を発信しました。



尾道松江線の開通効果により、広島市内から雲南地域までの所要時間が2時間を切るようになり、温泉をはじめ雲南地域の観光についての質問が多く聞かれました。さらに、雲南地域の食の幸についても、広島には無い美味しいものや珍しいもの、安全な食品があるというイメージを持つ方が多く、毎年このイベントに来ているという方や楽しみに待っていたというご夫婦とお子さん連れの方が多くイベントでした。

